

# 鷹栖町立学校適正配置計画

令和6年3月

鷹栖町教育委員会

## 1 はじめに

鷹栖町では、全国的にも深刻な少子化の進行による児童生徒数及び学級数の減少により、多くの小中学校が小規模校となっていること、また、学校施設の老朽化が課題となっている現状を踏まえ、令和4年6月に「鷹栖町立学校の在り方検討委員会」を設置し、町立学校の適正規模・適正配置の基本的な方向性について協議を重ねてきました。令和5年12月に「鷹栖町立学校の適正規模及び適正配置について」として、「少人数であれば、一人一人に目が行き届いた教育を受けることができる反面、集団の中で学ぶ達成感や切磋琢磨する教育といった面で劣ることは否めないことから、学校の適正規模（1学級あたりの児童生徒数）は、各学年1学級20～30人程度が適当と考える。また、学校の適正配置については、今後の児童生徒数の推移を慎重に見極めながら、将来的には、2つの小学校の統合又は義務教育学校（小中一貫教育）への移行を検討すべき」との答申を受けたところです。

学校規模による学校教育への影響については、様々な意見や考え方があり、また、教育効果や学校経営の視点からも様々な課題が指摘されていますが、鷹栖町教育委員会としましては、子どもたちが健やかに成長していくうえで望ましい教育環境を考えた場合、これから先の人間関係を築いていくためにも、学校教育は一定規模以上の集団の中で、それぞれの個性を尊重しながら、協調性や社会性を培い、次代を担う子どもたちが健やかに成長していくことが望ましく、そのためにも町立学校の適正規模化を図って行く必要があると考えております。

この計画は、鷹栖町立学校の適正な学校規模による学校配置を目指すにあたり、基本的な考え方や今後の取り組みについて基本方針としてまとめたものです。

## 2 児童生徒数の現状と今後の推移

### (1) 児童生徒数の現状について

現在、鷹栖町立の小学校は、鷹栖・北野の2校で、令和5年度の学級数は、両校で各学年1学級（合計6学級）となっており、令和5年5月1日現在の児童数は301人（鷹栖小学校117人、北野小学校184人）となっています。これを10年前（平成25年）と比較すると当時の児童数502人（鷹栖小学校245人、北野小学校257人）に対して、201人（40%）の減少となっており、特に鷹栖小学校については、大幅な減少となっています。また、5年前（平成30年）と比較した場合でも、当時の児童数389人（鷹栖小学校150人、北野小学校239人）に対して、88人（22.6%）の減少となっています。

中学校は、鷹栖中学校1校で、令和5年度の学級数は、各学年2学級（合計6学級）となっており、令和5年5月1日現在の生徒数は170人となっています。これを10年前（平成25年）と比較すると当時の生徒数220人に対して、50人（22.7%）の減少となっています。また、5年前（平成30年）と比較した場合でも、当時の生徒数254人に対して、84人（33.0%）の減少となっており、この5年間においても児童生徒数の減少が続いており、近年においてもその傾向が続いている現状となっています。

### (2) 児童生徒数の今後の推移について

本町における児童生徒数について、地区別の住民基本台帳から推計すると児童数は、令和5年度の301人（鷹栖小学校117人、北野小学校184人）から5年後の令和10年では、254人（鷹栖小学校94人、北野小学校160人）と推計され、47人（15.6%）の減少となる見込みです。生徒数は、令和5年度の170人から5年後の令和10年度では、152人と推計され、18人（10.5%）の減少となり、児童生徒数とも減少傾向にあるものの、減少率は小さく、学級数は横ばい（小学校各学年1学級、中学校各学年2学級）で推移すると見込んでいます。

### 3 学校施設の現状

本町における学校施設の現状について、鷹栖小学校は昭和 48 年に建築し、50 年が経過、北野小学校は昭和 59 年に建築し、39 年が経過、鷹栖中学校は昭和 57 年に建築し、41 年が経過しており、老朽化による修繕箇所が年々増加している状況にあります。今後、現状の学校施設を継続して使用していくには、小学校において、計画的な大規模改修（中学校は平成 25 年度に実施）を検討する必要があります。

### 4 適正配置計画の基本的な考え方

文部科学省は、平成 27 年 1 月に全国的な少子化の流れを受けて、市町村が学校統廃合の適否、小規模校を存続させる場合の基本的な考え方、留意点をまとめた「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」を策定しました。

本町においても、今後、児童生徒数の更なる減少が見込まれていますが、教育委員会としましては、鷹栖町立学校の在り方検討委員会の答申内容や保護者アンケート等の結果を踏まえ、今後の児童生徒数の推移や望ましい教育環境の在り方、併せて地域の実情等も考慮しながら、町立学校の適正配置を進めていきます。

### 5 小学校統合の必要性について

本町の各小学校の学級編成の状況を見ると、1 年生から 6 年生までクラス替えない単学級のみが続いています。学級規模については、北野小学校は、30 人以上の学級が 4 学年ある一方、鷹栖小学校は、30 人以上の学級がなく、15 から 20 人規模の学級が 4 学年ある状況となっており、両校ともに小規模校ではありますが、学校間での学級規模に違いがある状況です。

現状の学級規模を踏まえ、保護者アンケートの結果や今後の児童生徒数の推移を慎重に見極めながら、将来的には小学校の統合又は中学校を含めた義務教育学校（小中一貫教育）について、検討を進める必要があります。

## 6 鷹栖町における望ましい学校規模・配置について

小規模校の一般的なメリットとして、

- (1) 一人一人に応じた、きめ細やかな学習・生徒指導が可能
- (2) 学校生活への参加意識が高くなり、互いに協力し合う機会が増える
- (3) 異年齢の学習活動を組みやすく、体験的な学習等を機動的に行える
- (4) 教職員が児童生徒の情報について、共通理解を図ることが比較的容易
- (5) 学校が地域の中心施設として、地域と連携した活動を行いやすい等があり、一方デメリットとして、
  - (1) 集団活動の規模が小さいため、社会性の醸成を図りにくい
  - (2) 個人に対する評価が固定化されやすく、学習意欲や競争心に影響する
  - (3) 人間関係が固定化されることにより、多様なものの見方や考え方を学んだり、新しい人間関係等を創り上げる機会が少なくなる

等がありますが、本町の町立学校においては、小規模校として、児童生徒、教職員、保護者、地域住民がよりより学校づくりに向けて、これまでも様々な取り組みを進めてきたこと、また、各学校が教育及び地域コミュニティーの中心施設として果たしている役割等を考慮し、今後も小規模校のメリットを最大限に生かすため、本町における望ましい学校規模・配置計画として、当面は、現状の2小学校（各学年1学級）、1中学校（各学年2学級）を維持することとします。

## 7 統合に向けた検討時期（基準）について

当面は、統合年度を示さず2小学校及び1中学校を維持することとしますが、今後の児童生徒数の推移などを慎重に見極めながら、次のいずれかに該当する状況が見込まれる場合において、統合に向けた検討を開始します。

- (1) いずれかの小学校において、複数の学年で1学級あたりの児童数が10人未満となることが見込まれる場合
- (2) 両小学校の児童数の合計が、全学年において、30人程度となることが見込まれる場合